

アーバンシステム環境通信

No.24

2008 年 2 月 28 日

ダニエル・カール氏講演会

2 月 18 日（月）練馬文化センターにて行われた「練馬区しんきん講演会」に行ってみました。講師はテレビ等でも有名なダニエル・カール氏で、タイトルは「省エネ大国ニッポン。もっと自慢すべきだ！」です。

まず初めに、後援の「首都圏エネルギー懇談会」による東京の電気エネルギー事情のビデオを見ました。このビデオは、現在、東京都の電力自給率は約 10%！残り約 90%は原子力・火力・水力発電で、そのうち、福島県と新潟県からの原子力発電の割合が最も多く利用されているという内容でした。また、原子力発電は石油などの化石燃料を使用しない為、発電時に二酸化炭素を排出しないので、地球温暖化対策の観点から優れた発電方式だという事を学びました。

その後、待望のダニエル・カール氏の登場です。彼は 1960 年、アメリカ・カリフォルニア州で生まれ、初めて日本に来たのは約 30 年前…高校 2 年生の時に奈良の智弁学園に 1 年間の留学をしたのが始まりです。現在のダニエル氏は山形弁を話すイメージが強いですが、当時は奈良弁を話していたそうです。

次に来日したのは大学生の時で、大阪の大学に 4 ヶ月、京都・二尊院という寺に 2 ヶ月、佐渡島の文弥人形使いに 4 ヶ月弟子入りしました。そこで数々の地域の自然・文化・人々と触れ合って、同じ日本でも地域によって様々な特色があるという事を知り「そういうところが日本のいいところではないか？と感じたので、皆さん、日本人特有の謙遜ばかりしないで、もっと日本の良さを自慢すべきだ！」と熱弁していました。

ダニエル氏が初めて来日した時、日本は国中がオイルショックに沸いている省エネ時代でした。しかし当時、アメリカは資源が多くある国という意識から、洗濯物は乾燥機で乾かすのが当たり前・電気は全て白熱灯・車社会で、省エネという発想が全くなかった為、文化の違いに驚いたそうです。講演の最後、ダニエル氏は「現在では、アメリカ人も省エネに対する意識を持ってきたが、自動車は生活に必要不可欠。日本人は元来、省エネに対する想いが強いので個々の心がけでもっと良くなる。そして、優しい心や思いやりの心が残っていれば日本の良い文化は滅びない。」と締め括りました。

便利で快適になった現代だからこそ、昔から受け継いだ「物を大事にする」という意識を持ち続け、新しい良さも取り入れる、という事が大事なのではないのでしょうか？「エアコンの設定温度を 1℃変える」とか「使わない電気はマメに消す」とか…ささやかな事でも立派な「省エネ」につながります。世界からうらやましがられる「省エネ大国ニッポン」をこれからも維持し続けたいですね。



監修：山下 英輔 記者：岩松 美千子